



南関町立南関第三小学校

複数校兼務型における理科専科指導の在り方～オンラインを併用したハイブリッド型理科授業の研究～

町内の学校を横断する理科教育

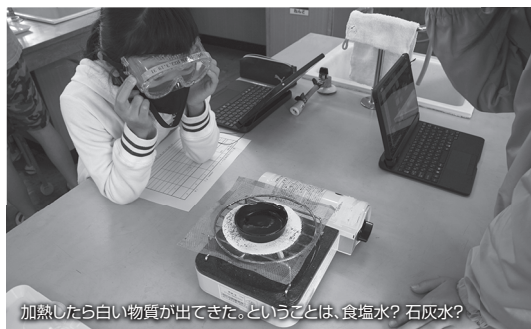
複数校を担当する理科専科教員

熊本県の南関町立南関第三小学校(旧・玉名北高等小学校)は、金栗四三が往復12kmの道のりを通学した母校だ。そんな「日本マラソンの父」が走った山間の道を、南関第三小の近藤祐樹教諭は理科の実験器具を載せた自動車で走る。町内4つの小学校の高学年の理科授業を、専科教員として一手に担っている。

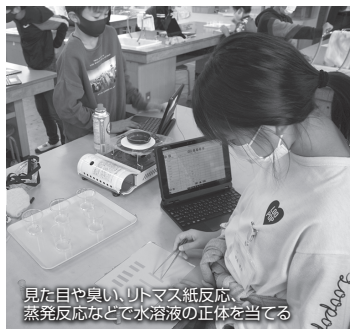
2020年8月、文部科学省の中央教育審議会は小学校高学年(5・6年生)の理科・算数・外国語で教科担任制を導入するよう促した。これを機に、南関町は児童が理科の必要性や学んだことの有用性を実感できるような質の高い理科教育を実現すべく、理科免許を持った専科教員による町内の学校横断的な理科授業の取り組みを、全国に先駆けて始めた。



水溶液の中身を当てるクイズ形式の実験授業



加熱したら白い物質が出てきた。ということは、食塩水? 石灰水?



見た目や臭い、リトマス紙反応、蒸発反応などで水溶液の正体を当てる

考える授業はおもしろい

先駆的な取り組みゆえに課題は多いが、可能性は広がる。たとえば、植物の成長などの単元は45分間の授業内では結果を得られない。そこで、児童にはタブレットPCで記録した写真や動画を送信させているが、近藤教諭は「他校の児童が撮影した画像を共有して参考にすることもあります」と、学校横断的な情報共有の可能性を語る。

通常の授業でも理科教員ならではの工夫で、児童たちは「楽しい」と口を揃える。リトマス紙などで水溶液の正体を当てるクイズ形式の授業を受けた南関第三小6年の児童のひとりには、「自分で考えて答えを探すのがとてもおもしろい」と話してくれた。

今後について近藤教諭は、「私は中学校の免許も持っているので、小学校からつながりをもった中学の理科授業を担当してみたいですね」と話す。教え子と同様、考えて答えを探す実験的な取り組みに、大きなおもしろさを感じているようだ。(個別助成)



ゴーグルを準備して、蒸発反応を確かめる



班の仲間と相談しながら考えるのも楽しい



●実施担当

近藤祐樹 教諭

●活動のモットー

「理科は楽しい」と思えるように、児童たちが遊びのような活動のなかで単元の内容を習得できるようにしたい。

学校概要



教育目標は「豊かな心と確かな学力を身につけ、心身ともにたくましく生きる子どもの育成」。ICT活用にも積極的な伝統校。

設立: 1874年
生徒数: 110人
所在地: 熊本県玉名郡南関町大字相谷1800

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索